伊賀市上野西部
公民館だより

第 181 号
平成 30 年 7 月 15 日
編 集 発 行: 上野西部公民館
所 在 地: 伊賀市上野福居町

上野西部地区の人口 世帯数 1,503 人口 3,255 人(男 1,565・女 1,690) 戦 30.6 末 現在

往古川の水をきれいにしよう会 総会

6 月 26 日(火)平成 30 年度往古川の水をきれいにしよう会 定期総会が、上野西部地区市民センター2 階ホールで開催されました。冒頭のあいさつで、同会 八尾光祐会長から、『往古川の水をきれいにしよう会は平成 13 年 12 月に設立され、17 年の長きにわたり家庭排水が流れ込む往古川の浄化に向け、地域で出来る家庭から出る生活排水への啓発、清掃活動、水質検査などの取り組みを、西部・東部・南部・木興の地域合同で行ってまいりました。今総会ではこの成果を踏まえ協議を進めたい。』と述べられ、議事が始まりました。来賓に、国土交通省から木津川上流河川事務所 伊賀上野出張所 所長、伊賀市からは人権生活環境部 理事、環境センター 所長、上下水道部 下水道課 課長、上野支所長が列席。同会役員・会員の東部、南部、木興、西部の自治会長が出席しました。議事は①活動報告（生活排水への啓発、チラシの配布、往古川クリーンウォーク）②決算報告が行われ、すべて承認されました。③同会の今後について八尾会長から、『本会は、当時往古川に流入する生活排水、工場排水の水質を良くする啓発活動を行う目的で組織され、チラシの配布、清掃活動、水質検査、などを進めてまいりました。長年続けてきた水質検査から改善の方向に向かい、国、県による川底の浚渫工事、堤防の整備、環境整備が大きく進みました。これで一区切りついたと考え、発展的解散を提案します。』と提言がありました。各委員からは

〇今後の往古川の水質改善は、公共下水道整備に期待する。
〇今後の生活排水啓発は必要で各自治協にて対応。
〇水質検査は継続を検討。

などの発言の後、採決が行われ、賛成 21 人 反対 2 名（会員数 41 名 出席 23 名 委任状 18 名）会則第 13 条の規約により提案は可決されました。決算繰越金は会員の 36 自治会にて配分される事が承認。17 年の活動に終止符が打たれ、閉会となりました。往古川の水をきれいにしょう会の活動は、今後は各地域で受け継がれます。

伊賀流自治研修会　地域活動支援事業 報告会

6 月 30 日(土)伊賀流自治研修会が、ゆめぽりすセンター2 階会議室で開催されました。

地域の課題を自分たちで解決し、自主自立した地域活動を行うため、住民自治協議会のしくみづくりを進める研修会で、第 1 部は住民自治のしくみ「これまで」と「これから」と題し、四日市大学 学長 岩崎恭典 氏が講演。阪神淡路、東日本大震災から「なんでも公頼み」から「市民ボランティア活動の高まり」「企業の社会的責任意識の高まり」「面識社会の必要性」など、住民の地域への意識の高まりが注目された中で、今後生産人口が減少に向かう中、自治体が出来る事、地域が出来る事を考え、住民参加のしくみづくりを進める事が、住民自治協議会の役割であると語られました。第 2 部は地域活動支援を受けた①食育を地域に『伊賀の友』②島ヶ原地域で暮らす『 PLAY-移動型イベント実行委員会』③間伐材活用『布引地域住民自治協議会』④高齢者配食サービス『諏訪住民自治会』⑤トレイルランを取り入れた観光促進『伊賀トレイルランナーズ』の、5 団体から成果発表が行われ、盛んな拍手が送られました。

公民館だより 広報せいぶ リニューアル

上野西部地区住民自治協議会
総務・広報・人権部会

6 月 26 日(火)総務･広報･人権部会が上野西部地区市民センターで開催されました。

毎月発行している広報誌について協議され『広報《せいぶ》』『公民館だより』を統合、新しい紙にて、8 月 1 日より毎月発行する事となりました。他の協議は下記の通りです。

〇伊賀に暮らす外国人向け冊子発行
・天神祭パンフレット 6 カ国語で作成
　ポルトガル語 スペイン語 中国語 英語
・配布：多文化共生センターに依頼
〇天神祭パンフレット　観光用発行　英語 中国語（繁と簡）韓国語　〇人権地区懇談会の開催に協力。

また、自治協のホームページについて、情報収集や、更新について協議されました。

広報誌《せいぶ たより》がスタートします

新しくなった紙面で 8 月 1 日 創刊号が発行されます。毎月 1 日発行致します。
広報《せいぶ》116 号　公民館だよりは、181 号が最終号となりました。
長年に渡りありがとうございました。新紙面もよろしくお願い致します。

マイエンザ（えひめ AI）配布のおしらせ

上野西部地区住民自治協議会
生活・環境・保全部会

生活・環境・保全部会で進めてまいりました環境浄化微生物《マイエンザ（えひめ AI)》を、上野西部地区市民センター玄関にタンクを設置し、配布しておりましたが、より多くの皆様に御利用いただけます様、使いやすい 500cc ペットボトルに変更しました。7 月中旬よりご利用いただけます。マイエンザ（えひめ AI）は、乳酸菌・酵母菌・納豆菌など食料品微生物を組み合わせたのが特徴で、糖蜜で発酵培養させており、安全性を重視した無害な液体です。トイレや台所にはキャップ 1～2 杯、生活排水、花壇、悪臭には 100～1,000 倍に希薄し御利用下さい。

鍛冶町だんじり構造修理

伊賀市教育委員会 文化財課

上野天神祭のだんじり、上野鍛冶町『二東・月鉾』楼車本体構造修理が、文化財復元修理事業の一環で進められています。昨年の 10 月より始まり、今年 8 月頃には完了予定です。解体修理が終わった部分から、組み立てが始まり、7 月 2 日には彫金の施された屋根が組み上げられ、だんじりの全貌を現わしました。
各祭町は 7 月虫干し、 籤取式は 9 月 9 日（日）です。

俳画サークル

おしらせ

7 月 15 日(日)　伊賀市消防団　夏季訓練
　　9：00～ 伊賀消防本部（緑ケ丘東町）
7 月 23 日(月)　生活・環境・保全部会
　　研修旅行　(愛知県)
7 月 24 日（火）　第 3 回悠々セミナー
　　【大地震から身を守ろう】
　　13：30～　ハイトピア伊賀 5 階
　　講師：伊賀市災害ボランテイアセンター
　　センター長　中村伊英さん
8 月 5 日（日）　流しそうめん大会
　　健康・福祉・スポーツ部会
　　上野西部地区市民センター
8 月 19 日（日）　夏の賑わいフェスタ
　　12：00～　銀座・本町通り周辺

煌星伊賀句会

選評　大野 利江

愛犬の倦(う)みて卯の花腐(くだ)しかな　河口 亨

長引く梅雨に外に行けず退屈している愛犬。美しい卯の花も腐ってしまうのではないかと。季語の使い方が適格である。

足音と同行霧の遍路坂　安屋 宣子

自分の足音に霧が同行してくれているので安心して遍路坂をゆく。霧と同行と言ったところに俳のおかしみがある。

寝足りなば手触りまろき籐の椅子　天野 理江

ぐっすりと寝足りて籐椅子に触ると何となめらかなこと。寝足りた満足感が繊細に読み手に伝わってくる。

一木(いちぼく)を喰らひ尽くせし毛虫かな　川口 義和

一木を喰らふとは、まさに男性らしい表現。上五中七に毛虫の貪欲さ憎らしさが出ている。大胆な詠みっぷりの痛快さ。

純白の杯(はい)高らかに泰山木　炊 規夫

泰山木は天の花と言われる。その純白の花を杯と捉へ、高らかも天の花ならでは。この杯で先ずはカンパイ!!

緩(ゆる)びたる己が身締まりゆく茅の輪　田畑 寛一

心身が緩んで来たと感じている作者。身を締め直さんと茅の輪をくぐる。正直に心情を吐露されたのだ。ご加護あれ。

捩花(ねじばな)や捩ぢれて咲くはまともなり　辻野 和彦

何度読み直しても不思議なお句。下五のまともなりが「オチ」となり深く納得。あたりまえの発見句。

ほうたるを放つも光り掌(て)に残る　冨田 まり

握っていた掌を開きほたるを放してあげたがしばらく光りが残っている掌を見ている作者。読み手もしばらくその余韻にひたる。

初採(はつど)りのトマトにもある突(つつ)き疵(きず)　百上 進一

初採りなのに疵がある。突いたのは誰だ。いやいやトマトのホクロかも等と、いろんな想像も含んでいるのでは。

またも増ゆ阿鼻叫喚(あびきょうかん)の震災忌　蔵本 稔恵

震災忌は大正12年の関東大震災の忌日の事。上五は先日の大阪の地震の事と申される。中七にどうしようもない不気味さが思われる。